

第4部

現代のグリーンランド

現代のグリーンランドは急速^{きゅうそく}に近代化し、グローバル化しています。第4部では自治政府^{せつりつ}を設立した1979年以降のグリーンランドの現代文化を、アート作品、音楽、マンガ、映像^{えいぞう}から紹介します。

グリーンランドの現代史年表

1908年	グリーンランド西部に地方議会が設置。
1925年	地方議会の権限強化。
1948年	デンマークの首相ハンス・ヘーネチョフトはグリーンランド委員会を組織。
1950年	グリーンランド委員会はグリーンランドの経済発展計画書(G50プラン)を提出。
1953年	デンマークの一地方と同格の地位を獲得。 デンマークの市民権が与えられる。
1960年代～	新経済発展計画であるG60プランを策定。 急速な近代化と都市化、人口増加。
1979年	グリーンランド自治政府が成立し、内政分野に対する自治の権限を獲得。
2003年	外交、安全保障分野における独自の発言権を獲得。
2009年	独立権を含む広範な自治権を獲得。
2013年3月	総選挙の結果アレカ・ハモン首相の選出。 グリーンランド初の女性首相の誕生。

グリーンランドの現代史

18世紀後半にデンマーク・ノルウェー連合王国によって植民地化されたグリーンランドは、その後、デンマークによって支配されてきました。しかし、1973年にデンマークがヨーロッパ経済共同体（EEC）に加入すると、EECの漁業規則がグリーンランドに一方的に押しつけられました。また、1974年にデンマークが多国籍企業にグリーンランドの漁場における石油の探査権を与えました。このためグリーンランド社会内でデンマークに対する不満が高まり、グリーンランドの自立化の動きが急激に高まりました。そして1979年には自治政府を設立し、その後も徐々に政治的な自立性を高めてきました。現在の主要産業は漁業と水産加工業ですが、近年は地下資源の開発、観光業、農牧業などに力を入れ、経済的な自立も目指しています。

現代アート

グリーンランドの観光アート作品として、1950年代から大量に制作されたトゥピラクの彫り物が有名ですが、現代アートには、版画やビーズ細工、絵画、ガラス工芸、陶器などもあります。グリーンランド人は、新たな技法や素材を用いて、彼らの考えやアイデンティティを表現しています。美術学校や美術大学で教育を受けたグリーンランド人の中に、国や民族、時間を超えたより普遍的なアートを求めて作品を作るアーティストも増えています。

カヤック

イヌイットが生み出し、世界中に広がったモノに、小型ボートのカヤックと防寒着のアノラックがあります。カヤックは、流木で作った骨組ほね くみの上に、数枚のアザラシ皮を縫い合わせ船体部ちやく そうに装着した小型ボートです。現在、世界各地でグラスファイバー製のカヤックがスポーツ用や娯楽用に製作され、使用されています。

現代の衣類

18世紀後半にデンマーク人がグリーンランドに住み始めると、グリーンランド人はヨーロッパから木綿製布も めん せい めの地や裁縫道具を手に入れ、布製の衣類を作り、着るようになりました。その後、ヨーロッパで作られた既製服き せい ぶくも入ってきました。今ではグリーンランド内に縫製所ほう せい じょがあり、そこで作られた衣類はグリーンランドで販売はん ばいされています。さらに、若手デザイナーはアザラシ皮とさまざまな布地を組み合わせ、伝統服をいかした新しいデザインでファッションを作り出しています。なお、20世紀はじめ頃から現在にいたるまで、女性の晴れ着かざはビーズで飾られています。

マンガ

デンマーク国立博物館グリーンランド研究センターでは、グリーンランド人の歴史をマンガにして紹介するプロジェクトを実施しています。その中心人物が、グリーンランド人（イヌイト）の漫画家^{まん が か}ヌカ・K・ゴッツフレッドセンです。彼は、同センターの考古学者^{じょうほう}から情報を受け、マンガを描いています。第1作は4500年前の先史文化について描いた『第一歩』であり、第2作は1200年前のドーセット文化をテーマにした『オコジョ』です。表現技法はグリーンランド人の画家アロン(1822-1869)の影^{えいきょう}響を強く受けていますが、日本マンガの影^{えいきょう}響も受けています。

ポップカルチャー

1960年代にはスチールギターを用いたカントリーミュージックが流行しました。グリーンランドの独立運動どく りつが盛んさかになった1970年代になると政治をテーマとした歌が歌われるようになりました。1980年代以降はロックやポップス、ラップが流行し、バンドも結成されました。最近では、ニヴィ・ニールセンのような世界で活躍するシンガーソングライターあらわも現れています。歌以外にも欧米文化おう べいとグリーンランド文化をミックスさせた演劇えん げきやダンスづくが創り出されるとともに、映画えい がやマンガせい さくも製作されています。

現代音楽

1960年代以降、グリーンランドでは欧米の流行音楽の影響を受け、ロックミュージックやジャズミュージック、ラップミュージックなどが盛んになりました。とくにロックやラップでは、デンマークの植民地支配への政治的批判やグリーンランド人のアイデンティティ、グリーンランドにおける自殺問題のような社会問題をテーマにした歌詞が多く見られました。1990年代に入ると新しい世代の歌手が、グリーンランドを賛美する曲も歌うようになりました。さらに2000年代に入ると欧米諸国でコンサート・ツアーを行う国際的に活躍する歌手も現れました。

エゴン・シキヴァット

Egon Sikivat 1942–2009

エゴンは、グリーンランドのドラム歌の歌手であり、世界各地で開催された国際会議やコンサートで実演しました。彼はグリーンランド東部のクーミウトで生まれ育った後、長い間、デンマークの首都コペンハーゲンで暮らしました。晩年は、グリーンランドの首都ヌークに移り住みました。1989年にはカナダ日北西準州(現ヌナヴート準州)のイカルイトで開催されたイヌイト環極北会議(Inuit Circumpolar Conference、現在のInuit Circumpolar Council、略称ICC)で各国から集まったイヌイトの前でドラム歌を実演したことで有名です。

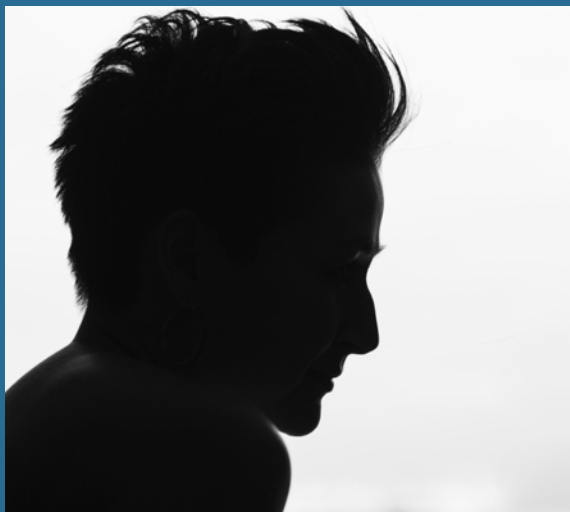


〈ドラムをたたき、歌うエゴン・シキヴァット〉
グリーンランド国立博物館・文書館提供

キミルナック

Kimmernaq Kjeldsen

グリーンランド東部アーシアートで生まれ育ちました。大自然があり、自由で、オープンで、フレンドリーなグリーンランドをこよなく愛する、グリーンランドを代表する女性歌手です。最初に出したCDは、子供の頃からの友人で、詩人・作詞家であるピラ・リングが彼女のために作った歌曲集「ツニスット」でした。カナダで、ミュージカル「ツルガック」を上演したこともあります。2013年には新しい歌曲集CD「ウアニ」をリリースしました。



《キミルナック》

撮影者: Angu Motzfeldt

ナヌーク

Nanook

グリーンランドを代表する人気ロック・バンド。メンバーは、ボーカルとギターを^{つと}務めるクリスチャン・エルスナーとフレデリック・エルスナーの兄弟、キーボードのマッズ・レン、ベースギターのアンドレアス・オッテの4人です。2009年にデビューアルバム「セキニッタ キンゴルパーティット(太陽があなたの上で^{かがや}輝いている)」を出すやいなや、グリーンランドでもっとも有名なバンドのひとつになりました。

2013年には、デンマークのマーメイド・レコード社からCD「ナヌーク(ホックヨクグマ)」をリリースしました。



〈ナヌークのメンバー、フレッドとクリス〉

撮影者: Ørjan Berthelsen

ニヴィ・ニールセン

Nive Nielsen

首都ヌークで生まれ育った、国際的に活躍する女性歌手です。大学生の時に歌に^{きょう み も}興味を持ち、^{さつ きょく はじ}作詞や作曲を始めました。彼女はカナダのオタワにあるカールトン大学に^{がく ぶ りゅう がく}学部留学し、ロンドン大学ゴールドスミスカレッジで^{しゅう し ごう しゅ とく}映像人類学の修士号を取得したというユニークな^{けい れき}経歴を持っています。グリーンランドのみならず、デンマークやアメリカ、カナダでコンサート・ツアーを行ってきました。彼女は、グリーンランドをモチーフとし、^{きょう び}恐怖を感じることやあこがれていることをグリーンランド語や英語で歌っています。



〈ニヴィ・ニールセン〉

撮影年: 2013年10月、撮影者: 岸上伸啓

グリーンランドと植村直己

日本を代表する登山家であり、冒険家である植村直己(1941-1984)は、北極圏を冒険するために、1972年にグリーンランドのシオラパルクに9カ月間滞在し、グリーンランド人から犬ぞり操作や狩猟など極地生活の技術を学びました。その後、1974年12月から約1年半をかけてグリーンランドからアラスカまでの約1万2千キロメートルを犬ぞりで走行しました。また、

1978年4月には犬ぞりで北極点に単独到達しました。さらに同年、グリーンランドを犬ぞりで縦断しました。



《北極点単独犬ぞり遠征に出発する前、カナダ・エルズメア島のアラートキャンプでの植村さん》

撮影年: 1978年2月 読売新聞社提供

グリーンランドに住む日本人、大島育雄おおしまいくお

グリーンランドには「グリーンランド人よりもグリーンランド人らしい」といわれている日本人が住んでいます。大島育雄(1947-)は、1972年に植村直己が住んでいたシオラパークに行き、植村とともに村人から犬ぞり操作や狩猟の技術を学びました。1974年に彼はグリーンランド人女性と結婚けっこんした後、そのままシオラパークに残ることを決心し、それ以降、ハンターとして生きています。彼は狩りかが大変うまく、村人から一目置かれた存在です。



《日本大学北極点遠征隊 地球の頂点「北極点」に到達、走り抜いてきた犬ゾリの犬をねぎらう大島育雄隊員》

撮影年: 1978年4月29日 読売新聞社提供

グリーンランド産エビと日本

グリーンランドは四方を海に囲まれ、アマエビ(ホンホッコクアカエビ)やタラ、オヒョウ、サケなど豊かな水産資源に恵まれています。このため、グリーンランドの主要産業は漁業と水産加工業です。グリーンランドから日本への水産物の輸出量は、EUに次いで第2位です。とくに日本はグリーンランドからアマエビを大量に輸入しています。グリーンランド産のアマエビはスーパーなどで売られており、日本人の食卓に上がっています。



《スーパーで売られているグリーンランド産のエビ》

撮影地: 札幌市、撮影年: 2012年4月、撮影者: 高橋美野梨

グリーンランドの将来

政治的な自立化が進んでいるグリーンランドですが、未だに経済面ではデンマークに依存しているのが実情です。今後の大きな課題は、経済的自立です。

四方を海に囲まれたグリーンランドの主要産業は、漁業と水産加工業です。

近年、温暖化の影響により新たな経済開発が注目を浴びています。グリーンランド南部では羊の牧畜、ジャガイモやカブ、ブロッコリーの栽培、植林が行われていますし、欧米からクルーズ船でやってくる外国人観光客の数が年々増え、観光業も盛んになりつつあります。また、氷河の後退によって陸上で石炭や銀、レアメタル、ウラニウム、氷晶石などの鉱物開発が可能になりました。夏に海氷が少なくなる海域が拡大したため、大陸棚や海底に埋蔵されている石油や天然ガスの開発も可能になりました。さらに、融解した氷河の水を利用した発電によるアルミニウムの精錬事業も計画されています。

このようにグリーンランドは、世界最後の資源フロンティアのひとつです。このため世界各国を巻き込んださまざまな経済開発が進められており、欧米のみならず、日本や中国との経済関係も強くなっていくと予想されます。グリーンランドの課題は、文化やアイデンティティを維持させつつ、いかに自然環境を破壊することなく、経済発展を遂げるかということであると思います。経済的に自立できれば、国家としてデンマークから独立する可能性もあります。